

クサタチバナ	<i>Vincetoxicum acuminatum</i> Decne.	絶滅危惧 I 類
(環境省: 準絶滅危惧)		ガガイモ科
選定理由	既知のすべての生育地で生育条件が著しく悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。	<p>写真(奥田浩之)</p> 
形態の特徴	多年草。直立して高さ30-60cm。葉は対生、卵形~長楕円形で、先は鋭く尖る。両面の脈上に微毛がある。花序は茎の上方に出た数個の長い花柄に多数つき、花冠は白色で径約20mm。	
生態的特徴	山地の草地や林床の明るい疎林に見られる。花期は5-6月。	
分布状況	本州(福島県以西)、四国、九州に分布する。岐阜県においては県南西部の伊吹山周辺にのみ見られる。	
減少要因	本種の生育地は県内では石灰岩地という特殊な立地に生育する種でもあるため、もともと個体数も少ないが、生育地の周辺環境の悪化により減少している。	<p>分布図</p> 
保全対策	本種は樹林化がすすんで被圧されるようになると衰退していくため、草刈りや除伐など適度な人為的な管理を行い、日当たりのよい草地を維持する必要がある。	
特記事項		
参考文献	「日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類」(佐竹義輔ほか(編), 1981年)	

文責: 奥田浩之